

園長メッセージ 2月

2月11日の「建国記念の日」には、玄関に国旗を掲げよう!

玄関に、国旗(日の丸の旗)を立てて、日本国の誕生を祝いましょう! 現在、世界には建国の日を定めている国が百数十ヵ国ありますが、その殆どは、植民地からの独立を祈念する日や、革命記念日などをそれに当てています。つまり、そのいずれも何らかの武力により乗っ取られていたのを、武力で取り戻し、独立した記念日であり、血なまぐさい数々の悲劇と犠牲者がいました。



しかし、日本の場合は、そのいずれでもなく、神話以外にその根拠がないという、何とも素晴らしいことではありませんか。来年5月には新天皇が即位されます。

建国記念の日には、改めて、天皇の存在、憲法のあり方、国を護る仕組みの在り方について、国民一人一人が真剣に考えねばならないと思います。

◇◆第12回 キッズ元気っこ! マラソン大会 (NPO 北九州陸上クラブ Ric 主催) に

当園児も多数、笑顔で参加しました!

1月21日小倉北区の勝山公園で開かれ、親子連れ約550人が参加。公園内に設けられたコース(5.6歳児700メートル、4歳児500メートル)を約30人のグループに分かれて、冷たい風に負けず元気に走りました。

年長組・坂本遥音さん(写真のゼッケン54番)は昨年に続き2度目の参加で、女子の部に出場し、5位に入賞! 毎日新聞に「走るのが大好き。とても楽しかった」と、その感想が掲載されました。(1/22朝刊)。



前回に続き当園の先生方のエッセイをお届けします。

① 劇ってなんだろう!

満3歳児(いちご組)

谷井幸恵

10月の下旬、園では生活発表会に向けて劇の練習が始まっていた。いちご組の子供達は、年少児の部屋を覗いては「何かしよる! 何しよると?」「これ(大道具)何?!」と、興味津々だ。

年少児の部屋や講堂で、劇の練習を間近で見ると、目をキラキラさせて、まるで絵本を見ているかのように劇の世界に入り込み真剣に観ていた。子供達は「鬼さん、強そうやねえ! 桃太郎、鬼さん倒せるかなあ! ?」などと、隣の子と桃太郎や鬼になりきって会話を楽しんでいた。

ある日のこと。教師が、劇を観に行く前に「今から観る劇はね～」と、登場人物やあら筋だけは伝えたものの、肝心の劇の題名を言い忘れていたことがあった。ゆり組が、

絵本の『せんたくかあちゃん』を劇にしたものだ。いつものように楽しく劇を見ていると、突然A君が「先生！これ、絵本の『せんたくかあちゃん』と一緒に！」と、ハッと気付いた様子で大声を發した。教師はA君の發言に驚いただけでなく、題名を伝えてないことに気付いた。A君は、劇の題名を直ぐ思いだせるほど、家庭で何度も絵本の読み聞かせをして貰っていたのだ！

毎回、劇が終わると自然と拍手がおき、お兄さん達に向かって「おおまる！」と、手で大きな丸をつくってみせた。「上手やったね！」と口々に言い、感動しているのがわかった。

生活発表会終了後、年少児の劇と一緒に参加させてもらった。ずっと観ているだけだった劇に、自分達が参加出来ると知り「やったー！」と、跳び上がって喜んだ。優しいお兄さん、お姉さんの間に入り、一緒に動物に変身したり、「うんとこしょ！」とセリフを言ったりと、元気いっぱい演技していた。教師が想像していた以上に、子供達はセリフや動きを覚えていて、初めて参加したとは思えないほどだった。



そして、劇の楽しさを知った現在『ぴったんこってきもちいいね』という紙芝居を題材にして、満3歳児なりの劇ごっこを楽しんでいる。初めて読んだ時から自然と劇ごっこ遊びへと発展した。「お兄ちゃん達がしよった劇みたい！」「楽しい！」と、喜んで取り組んでいる。子供達は、劇を観て楽しみ、参加して楽しみ、創作して楽しみと、とても満ち足りた顔をしている。

② 笑顔の大切さ

保育補助 森田 由紀

入園当初から泣きながら歩いて登園していたA子ちゃん。年中になっても不安な時には、まだ泣いてしまいます。門立ちをしなが、毎朝その光景を見ていましたが、いつの間にか笑顔で登園できるようになり、その笑顔もいつもの光景に。

3年が経ち、卒園式前日の登園日も、笑顔で「おはようございます」と挨拶ができ、彼女が教室に向かう姿を見つめながら、お母さんがお礼を言って下さいました。「毎日泣きながら登園しても、先生方が笑顔で出迎え、挨拶して頂き嬉しかったです。今では笑い話になりました」と。

A子ちゃんも不安でいっぱいだったことでしょう。そしてお母さんも不安や心配と色々な思いを飲み込んで笑顔で送り出して下さっていたと、改めて感じました。

これからも変わらぬ朝の光景を子供達の成長を噛みしめつつ、笑顔で挨拶を続けます。



③ コミュニケーションを大切に

すみれ組 池 俊子

家庭にはそれぞれの環境があり、園や子に対する保護者の対応も様々です。ここではほっこりエピソードを取り上げてみたいと思います。年少時、K君は会話もままならず言語療育に通院していましたが、たくさん会話を交わすことで、言葉もしっかりしてきて今年度・年中の生活発表会では責任ある台詞も言えました。今では様子も変わり毎日キラキラ輝いているといった状況です。

生活発表会では、自ら好きな役を見つけ持っている力を充分発揮できました。保護者からは、今まで見たことのない姿を見られたと心から喜ばれ、K君自身も大きな自信を得る事が出来ました。想像力や理解力も高くなって、或る日、入浴中にお話作りのリレーが始まったそうです。兄「ある所にお爺さんとお婆さんが住んでいました」と話し始め、次に母「隣には意地悪なお爺さんとお婆さんが住んでいました」と続けると、K君が「それからお爺さんとお婆さんは森の動物達に会いに行きました」と知っている言葉を繋げながら、オリジナルストーリーに盛り上がっていたとのことでした。

家庭生活での取り組みもよく考えられています。K君からのちょっとした疑問にもしっかり受け答えられ、子供の話を最後まで聞いて対応されている保護者です。最近のエピソードとして、連絡帳に書かれていた食育面での一部をご紹介します。

- ① 先日食育通信を眺めていたら、「これ何て書いてあるの?」と聞いてきたので「これはね、園長先生がお薦めのお料理の作り方が書いてあるのよ」と答えたら、「食べてみたい!」というので一緒に買い物へ。豆腐、豆乳、白菜などを購入。白菜はKの担当。切ってもらい多少の大きさのばらつきもありましたが、家庭料理の醍醐味です。完食して満足。
- ② おやつに焼き芋が食べたいと言うのでKがさつまいもを選び、アルミホイルでくるくると包み、鍋に入れて焼きました。
- ③ 餃子作りではあん（具材）を入れ、両手でぎゅっとつまむ様に閉じるのい、と一度手本を見せると、Kは皮の上の波型も上手にできました。力の加減が難しい作業ですが、自分が作った餃子は格別なようで完食。
- ④ シチュー作りでは人参とじゃがいもを切り、油で炒めてもらいました。



いずれもK君が手伝ってくれるので大助かりと小さな子供にも感謝の気持ちをしっかり伝えている保護者、それが子供の心の発達にも大きく影響していると思われます。K君の園生活は大きく変化しています。家庭でのコミュニケーションにも恵まれ言葉も豊かになって、発音も発言も迷うことなくしっかりできるようになりました。できる事が増えて更に伸び伸びと成長しています。

(2018年2月1日 文責 福原洋子)